

小学4年生
文章読解に
くんと
強くなる

別冊
解答書

- ・（ ）は、答えにあってもよいものです。
- ・〈 〉は、別の答え方です。
- ・例は、答えの例をしめしています。
- ・答えといっしょに、かい説も読みましょう。
- ・答えに文字数などの指定がない場合、習っていない漢字は、ひらがなで書いていても正かいです。

1

説明文

話題と説明をつかむ
— 話題 —

へきほん

4・5 ページ

① アブラコウモリ

② ヒート（熱の）アイランド（島）現象

③ ア ④ 温暖・エサが手に入りやすく

! かい説

① 文章には、「アブラコウモリ」がくり返し出てきます。

② 「都会の温暖化」という言葉が、直後の一文で「都会全体が大きな大きな熱の島のようになる」と言いかえられ、さらにこれは、「ヒート（熱の）アイランド（島）現象」と呼ばれると書かれています。

③ 直後の段落の内ようを注意して読みましょう。「ふたつの原因」とは、「町全体が、熱をく発散されにくくなったこと」と、「自動車やエアコンのく熱を出しつつづけていること」です。

④ 最後の段落に「暖かい」こと、「エサをとりやすい」ことで冬みんせずとも生きられることが書かれています。この内ようは、最後から二番目の段落にくわしく書かれています。

2

説明文

話題と説明をつかむ
— 話題 —

へきほん

6・7 ページ

① イ

② ダンス・追い出そう

③ (1) 赤色 (2) エ

! かい説

① 最初の段落に、「動物行動学では『かぎし激』とよぶことがあります。たとえば、次のような場合です。」とあります。ここから、この文章が、「かぎし激」について例をあげて説明していることが分かります。「いっぽう」という言葉に注意して、「メス」と「ベ」のオス」の行動についてとらえましょう。

③ (1) すぐ後の部分から読み取りましょう。
(2) 文章の最後で、し激を「かぎ」、行動を「じよう前」に見立てていると説明されています。なわばりの主であるトゲウオのオスの場合、はんしよく期をむかえたオスの特ちょうである赤色がし激（「かぎこ」となって、赤色のものをこうげきするという行動（「じよう前」）が引き起こされます。

2

1

ア

2

ひづめ・つかまえ

3

しなやか・のびちぢみ

4

(印象に残ったこと) 例肉食じゅうの手足が、走るいがいの働きもできるように変化していること。

(理由) 例生き方に合った変化をしていることが、すごいと感じたから。

!

かい説

1

最初の段落に、「では、おいかける側の肉食じゅうの手足はどうなっているのでしょうか。」とあります。読んでいる人に問いかける文で、話題をしめします。

2

「しかし」という言葉を使って、草食じゅうと肉食じゅうの手足をくらべながら説明しています。

3

「ネコのなかまの動物」の背骨について、後から二番目の段落で説明しています。

4

文章をふまえて書きましょう。理由は、「〜から。」「〜ため。」などの言い方で書くといいでしょう。

1

生きもの・食べもの

2

イ

3

5

4

三々四週間・虫をとる・草の種類

!

かい説

1

最初の段落に「どうしてスズメは、こんなに何度も子育てをするのでしょうか。」という問いがあり、次の段落でその問いに答えています。「それは」という言葉に注目しましょう。

2

「そこで」は、結果とその理由をつなぐつながぎ言葉です。「なかまの数をふやしている」のは、「群れないと生きていけないからです。」

3

— の前の部分をよく読みましょう。

4

7の段落と8の段落で、シジュウカラとスズメをくらべています。7の段落ではひとり立ちまでの期間について、8の段落ではその理由について説明しています。

1 ア

2 四十年・白もち

3 イ

4

ハレの日…(1) 特別なめでたい日 (2) 白もち
 ケの日…(1) ふだんの日 (2) きびもち、あわもち、もろこしもち、ひえもち

! かい説

1

① ———の前には、日本にはもちの種類がたくさんあること、それが後ろには、大きく二つに分けられることが書かれているので、アが正しいです。

2

「その」などが指す内ようは、それより前に書かれていることが多いです。直前の文をまとめます。

3

前には、おもちがkantánには食べられなかった理由の一つ目書かれ、後ろには、二つ目の理由が書かれています。同じような内ようを順番につないでいるので、イが正しいです。

4

ハレの日、ケの日の意味は、最初の段落に書かれています。おもちについては、最後の段落に書かれています。

1 一本の木に

2 イ

3

4

例 仲間にきけんを知らせる

! かい説

1

指す内ようが指す言葉の後ろに来る場合もあります。「これ」は「アレロパシーの一つ」で、その後にくわしい内ようが書かれています。「一本の木に」ということ」という三十六字の部分です。

2

前の文も後ろの文も、「きけんを知らせる」アレロケミクスについての説明です。同様の内ようをならべているので、イが正しいです。

3

② ———の後に、「つぎのようなものがあります」とあるので、「その例」が指す内ようが次の段落より後に書かれていることが分かります。

4

「すごいこと」とは、今までの文章で説明してきたことに対する筆者の感想です。二つ目までの段落に文章の話題が書かれているので、この部分に注目してまとめましょう。

1 ア

2 ひたる・話し合う

3 絵・文章 ※順不同

4 例 一人で読む

理由：自分のペースで、じっくりと本を楽しむことができるから。

! かい説

1 〇の前には一人で本を読むことについて、後には

友だちと同じ本を読むことについて書いてあります。

〇には、前後でちがう内ようをつなぐ言葉の「でも」が入ります。

2 第一段落では一人で本を読むことについて、第二、

三段落では何人かの人といっしょに本を読むことについて、それぞれ説明しています。

3 前の段落で、「絵巻物」がどのようなものか説明しています。

4 自分が選んだほうの本の読み方について、理由を考えて書いていけば正かいです。

1 音・声・動き

2 ウ

3 わんわん・にやーにやー・ざあざあ・びゅ

4 う・きらきら・がっかり

例 新しい自転車がぴかぴか光っている。

! かい説

1 「それ」よりも前の部分から、指す内ようをさがしましょう。

2 〇の前では「ぎ音語・ぎ態語」の説明が、後ではその例がしめされています。例をあげるときには、「たとえば」を使います。

3 最初の段落で、ぎ音語・ぎ態語の例がしうかいされています。

4 ぎ音語・ぎ態語は身の回りにたくさんあります。ふだんの生活で使われているぎ音語・ぎ態語をさがして、その言葉を使った文が書いていけば正かいです。

① ア・ウ・エ

② まっさお・(きよ大な) 入道雲

③ なかよし・いっしょ

④ イ

! かい説

① 五行目から十三行目に書かれている、町の様子やま
さるの言葉の内ようから、今まさるがいる町の中の
様子が読み取れます。

③ 最後から二つ目のまとまりをよく読みましょう。
なかにいたときのまさるとせいちゃんがどんな関係
だったかが分かります。

④ いなかとはまるでちがう町で、せいちゃんのいない
夏休みをすごすことになったまさるの気持ちを、二
つ目、四つ目の会話文からとらえましょう。この場
面では、いなかをはなれ、なかよしの友達とも別れ
て、夏休みを町ですすごすことになったまさるの様子
や気持ちがあがっています。

① 三・三・二・一

② イ

③ (1) ゾーンからはみだしたところで、バトン

(2) 例勝ちたい思いだけで、あせっていたか
ら。

! かい説

① 「五年の上原くんから、おねえちゃんがバトンをう
けとったとき、一組は三位でした」「三組をう一着
でゴールインです」という部分から読み取ります。

② 二行後からの岡田先生の言葉をよく読みましょう。

③ (1) リレーの「やくそくごと」をわすれてどうした
のが、②——の前のまとまりに書かれています。「こ
と。」に続くように書きぬきます。

(2) ②——の直前の文から、理由を読み取ります。
文末を「くから」「くので。」などの形でまとめ
ます。

① ウ

例 おおかみにつかまって、食べられなくな
いという気持ち。

③

ガケ・生きものへおおかみへ
強く・エサ・西（の方）・人間

④

! かい説

① 前の部分に注目します。「とほうにくれる」は、ど
うしてよいか分からなくなる。「日も西にかたおい
てきた」は、日がくれてきたということです。

②

ジョンは遠ぼえを聞いて、キューが言っていたこわ
いおおかみかもしれないと考え、「そいつらからみ
たらボクもエサなのだろうか」と思っています。

④

ジョンがおおかみに会会う前の場面では、キューの
話にあるように、おおかみは「こわい」ものとして
えがかれています。じっさいにジョンがおおかみに
会会う場面では、おおかみは、山の中でまよってい
たジョンに、帰る方向を教えてください。

① イ

② いやな・明るい

③ ア・ウ

④ 例 やさしい

! かい説

③ ② の直後で、わたるは、「ぼくも。」と言ってい
ます。ここから、わたるも、まゆと同じクラスにな
れてよかったと思っていることが分かります。また、
「ぼくも。」と言ったときの、「少し赤くなっていた」
という様子に注目しましょう。それまでまゆに対し
てぶっきらぼうな様子で話していたわたるが、まゆ
と同じクラスになれてよかったという本心を思わず
言ってしまったことを、てれくさく思っている気持
ちが読み取れます。

④

まゆは、わたるの様子からその気持ちを思いやっ
て、わたるの心をときほぐすような言葉をかけたり、わ
たるの気持ちによりそうようなおくりものをあげた
りしています。そんなまゆのせいかくにふさわしい
言葉を考えましょう。

13

物語

内ようをつかむ

— 気持ち・せいかく

練習

28・29 ページ

1 イ

2 ウ

3

4

例 思いやりへやさしさへ

かあちゃん、かつこいい。

! かい説

3

お姉さんのひとりがビンをわってしまっても、自分がすばやくかたづけ、そのお姉さんのことを元気づけて、大切なことを教えているかあちゃんの姿を見た「ぼく」は、すっかり感心してしまい、「かあちゃん、かつこいい。」と思ったのですね。

4

かあちゃんは、仕事場であるスーパーのなかで、お姉さんたちに仕事をきぱきと教えながら、お姉さんがわってしまったビンの後しまつをきちんとしています。そして、そのお姉さんをしかることなく、笑ってはげましているところから、仕事をしっかりやりながら、人に対しては思いやりをもってせつする、やさしいせいかくの人物だと考えられます。

14

物語

内ようをつかむ

— 気持ち・せいかく

練習

30・31 ページ

1 イ

2

3

4

例 (なんとなく) きれいにおもえてきた。

ゆううつ

おちようし者

! かい説

2

三田くんは、みんなの前で、父のもののまねをされたふき子はどう思うかなどということはあまり考えていないようです。軽い気持ちでふき子のいやがることをしてしまっている「おちようし者」だと言えます。直後の父に対するふき子の言葉から、父はちようしがよすぎて、あいそをふりまくから、自分がいやな思いをしているのだという感じが読み取れます。そんな父にいや気がさして、ゆううつな気持ちになっているのです。

3

4

ふき子は、「ふき子」という名まえが大すきでしたが、父のせいで自分はいやな思いをしているのだと考えて、そんな父がつけてくれた名まえまで、なんとなくきらいにおもえてきたのです。

8

15

物語

内ようをつかむ

— 気持ち・せいかく

へおうよう

32・33 ページ

④ ア ③ ① ウ ② ア ③ イ

! かい説

② 「^き気の毒^{どく}そうにして」とあることから、みんなはゴーシュのことをかわいそうに思っているので、じぶんの楽^がふをのぞきこんだり楽^が器^きをはいたりして、わざとゴーシュに注目しないようにしているのです。

③ ①③の直後の部分に注目して考えます。①は、楽長に「セロがおくれた。……」とゴーシュがどなられ、ゴーシュは「顔をまっ赤^かにして額^{ひたい}にあせを出しながら」ひいています。②は、楽長に「セロっ。系^{けい}が合わない。困^{まづ}るなあ。……」とゴーシュが注意され、ゴーシュはあわてて系^{けい}を直しています。③は、「またかとゴーシュはどきつとしましたがありがたいことにこんどは別^{べつ}の人^{ひと}でした。」とのべられています。何度も注意されても、一生けん命^{めい}ひき続^{つづ}けていることから、ゴーシュのせいかくを考えましょう。

16

物語

内ようをつかむ

— 気持ち・せいかく

へおうよう

34・35 ページ

④ ③ ② ①
例^{れい} ウ ウ イ
おけちゃん、また会える日まで、元気でいてね。

! かい説

③ — は、母牛に大根をまるごと食べさせたら、のどにつまって息^{いき}ができなくなってしまうので、そうするのはやめてほしい、ということ。日ごろから大切に思っていた母牛が、自分とはなれてからもつらい思いをしないようにと気づかっている言葉であり、母牛に対する深い愛^{あい}じようが感じられます。

④ 母牛のマアツツという鳴き声を聞いた島子^{しまこ}は、母牛に対する思いを、同じ鳴き声にこめて伝^{つた}えようとしています。「ずっと元気でいてほしい」「早く帰ってきてほしい」「子牛のことはちゃんと守るから、心配^{しんぱ}しないでほしい」などの思いが書けていれば正か

ここまで読んで読んだ文章で、好きなものはあるかな？
同じ人が書いた本や、同じものを説明している本などをさがして読んでみると、楽しいよ！



17

説明文

段落と要点をつかむ

要点

きほん

36・37ページ

10

① 植物の種 ② ウ

③ (右から) 1・4・3・2

④ 成長に必要な養分・発芽点

！
かい説

① 「それ」よりも前の部分に注目しましょう。土に植

えると、やがて芽を出してくきや葉、根が生えるのは、「植物の種」です。

② 「問い」の文からこの文章の話題をとらえましょう。「問

い」の文は、②の段落に、「せっかく、くきや根ま
でかり取っても、なぜタンポポは生えてくるのでし
うか？」とあります。

③ 「発芽実験」のやり方が書かれている、④の段落を

読んで、実験の順をたしかめましょう。

④ ④の段落に注目しましょう。「タンポポの根には成長に必要な養分がふくまれている、その切り口には芽の出るものになる『発芽点』ができるため」と、理由を説明しています。

18

説明文

段落と要点をつかむ

— 要点

練習

38・39 ページ

①

やぶれにくく、長もちする

②

ア・エ

③

同じように・元のすがたのまま

④

ア ②・③ イ ④ ウ ①

! かい説

①

和紙と洋紙のとくちようをのべた文をさがしましょう。
 ①の段落の一文目に、「和紙には、くという二つのとくちようがあります。」とあります。

②

②の段落で「やぶれにくさ」と「せんの長さ」の関係、③の段落で「紙が長もちするかどうか」と「作り方のちがい」の関係が書かれています。

③

④の段落に注目しましょう。「正倉院」と「世界の博物館や美術館」を例にあげて、「やぶれにくく、長もちする」という和紙のとくちようがどのようないかされているかが説明されています。

④

それぞれの段落の要点をもとに、段落の役割をつかみましょう。

19

説明文

段落と要点をつかむ

— 要点

およう

40・41 ページ

①

(1) パスタ・スパゲッティ

②

六

④

例 多くの種類

! かい説

①

(1) ①の段落の二、四文目に注目しましょう。

(2) 「そばくな疑問」が書かれている①の段落から読み進めると、③の段落に「答えを言いました。」とあります。

②

「スパゲッティ」「マカロニ」「リングイネ」「フェットチーネ」「ニョッキ」「ペンネ」の六つです。

③

⑤・⑥の段落では、「パスタ」という言葉の意味の変化について書かれています。よく読んで、要点をおさえましょう。

④

⑦の段落二文目の「それで」に注目しましょう。一文目が理由にあたると分かります。

① 法律・国語

② ひとつの国の中で、いろんな言葉が話されているから

③ イ

④ 例 たくさんの言葉を知ると、相手に大量の
思いを届けることができるということ。

⑤ ウ

！
かい説

① — よりも前の①・②の段落に注目しましょう。

② 理由をのべる「くから」がつく文をさがしましょう。

③ ⑧の段落の初めに、前の文と反対の内よりの文をつなぐ「でも」があります。

④ ⑧の段落で、筆者は言葉を乗り物にたとえています。三文目で、「乗り物が小さいと、つまり知っている言葉の数が少ないと」とあることから、「大きな乗り物に仕立て」とは「たくさんの言葉を知」ることであり、それによって大量の思いを届けることができる」と筆者がのべていることが分かります。

① 例 ヤマネが枝の下側を移動すること。

② 太陽の光・枝の上側

③ バランス

④ イ

⑤ イ

！
かい説

① 「それ」の前の内ように注目しましょう。「ヤマネは枝の下側を移動します」とあります。

② ヤマネの移動と植物の光合成の関係を説明している

③ ②の段落に注目しましょう。「植物はく葉や小枝を枝の上側からのばしています」とあります。

④ ③の段落の内よりをよく読んで、ヤマネが枝の下側を移動するわけの二つ目をおさえましょう。

⑤ ④・⑤の段落では、ヤマネの体の色が、敵に見つかるのをふせぐ役割をすると説明されています。

⑥ ①の段落で「ヤマネが枝の下側を移動するわけ」を話題としてしめし、②・③の段落でその説明をしています。④・⑤の段落では、ヤマネの体の色が果たす役割について、説明を加えています。

- ① クラゲ・つくり
- ② かたい・九十五
- ③ 入口・出口・同じ・出入口・前後
- ④ ア



かい説

① 話題をしめす文をさがしましょう。①の段落に、「クラゲの体は、どのようなつくりになっているのでしょうか？」という問いの一文があります。

② ミズクラゲの体のつくりについて書かれている、②の段落一文目の内ようをおさえましょう。

③ 「ほとんどの動物」と「クラゲ」の体のつくりについてくらべながら説明している、④⑤⑥の段落に注目しましょう。

④ ⑤の段落の「まん丸なクラゲはどうでしょう。」という一文に注目しましょう。④の段落で説明した「ほとんどの動物」とくらべながら、⑤⑥の段落ではクラゲの体のつくりを説明しています。

- ① 短・細長・さらさら
- ② ア・ウ
- ③ お米がちがう
- ④ ①・⑤・⑥



かい説

① ①③の段落に注目しましょう。日本とインドの米をくらべながら、そのちがいを説明しています。

② ④⑤の段落には、日本とインドのごはんの食べ方がちがう理由が書かれています。

③ ⑥の段落から、手で食べるかおはしで食べるかに分かれた理由を読み取りましょう。

④ ①②の段落で話題であるお米の形について、③⑤の段落でお米のせいしつについて実験という具体例を用いて説明し、⑥の段落で全体をまとめています。

① 新しく生みだす

② 2・3

③ 頭・ヘッド

④ ア

⑤ 数え方…例「ゴリゴリ」

理由：例「えんぴつ」は、使うために毎日けずらなければならぬところが、ペンなどちがって特ちょう的だから。

！
かい説

① 「そんなこと」よりも前の部分に注目しましょう。

② 「このような例」とは、数え方を新しく生みだした例のことです。「例えば」から始まる②・③の段落に、その例があげられています。

③ ②の段落をよく読んで、「一頭」は何をヒントに生まれた数え方かおさえましょう。

④ この文章は、①の段落で話題をしめし、②・③の段落で例を説明し、④の段落で全体をまとめています。えんぴつのどんな特ちょうように注目して数え方を考えたかを説明しましょう。

説明文を読んで、もっと知りたいと思うことがあったら、本やインターネットを使って調べてみよう！
調べたことを文章にまとめてみてもいいね！



25

物語

全体をつかむ

場面・気持ちの変化

へんか
きほん

52・53 ページ

1

イ

2

すきなもの

3

何が見えるかな・何があるかな

※順不同

4

だいすき・魔女になる

! かい説せつ

2

キキは、自分のしょうらいについて、（あたしは自分のすきなものになるんだ。自分で決めるんだ）と、心の中で考えていたことをとらえましょう。

3

空中にうくことができたキキは、とても気持ちよく感じ、「もっと高いところを飛んでみよう、もっと、もっと……そしたら何が見えるかな、何があるかな、もっと、もっと……とまるで体と心をもちあげるようなふしぎな興味がわいて」きたとあります。

4

キキは、自分のすきなものになるのだと思っていましたが、空中にうくけいけんをしたことをきっかけに、飛ぶことがだいすきになり、大きく気持ちが変わったのです。

26

物語

全体をつかむ

場面・気持ちの変化

へんか
れんしゅう

54・55 ページ

1

ア

2

(1) ひどい・つまらない

※順不同

(2)

つめたくてゝんがいる。

3

イ・ウ

! かい説せつ

1

直前に、「あんなにここをにげだしたかったのに」とあります。つまり、以前はにげだしたかったが、今はちがういうことであり、ゆうすけが動けないのは、帰る気持ちになれなかったからだと考えられます。

2

(2) パパが考えるような、ひどい所やつまらない所ではないということをしめす、山での生活のみりよくが、直後のひと続きの五文に書かれています。

3

山小屋に来たころのゆうすけの気持ちは、文章の前のほうに、「ここをにげだしたかった」と書かれています。しかし、山小屋で生活しているうちに、山の自然や人のすばらしさが感じられるようになり、パパがむかえにきた今では、山小屋でくらしたいという気持ちに変わっていたことに気づいたのです。

①

例うれしい

②

体育の時間くいたのだ。

③

例自分がいてもいなくても、だれも困らない。

④

例教室にすることが楽しくなり、ピアノ係りをだれにもゆずりたくないと思う気持ち。不安な気持ち。

! かい説

③

文章の半ばに、「私なんていてもいなくてもだれも困らないと思っていたのに、……」とある部分に注目します。ピアノ係りになる前は、陽菜は自分のことを、だれの役にも立っていないそんざいだと思っていたのです。

④

陽菜は、ピアノ係りとしてみんなにみとめられるようになり、楽しくなっていたのに、ピアノが上手な転校生の登場によって、その気持ちが悪化へと大きく変化します。人物の気持ちの変化をとらえるときには、そのきっかけとなった出来事などをおさえて考えるようにしましょう。

①

例おなかをすかせている子どもに食べさせるため。

②

りょうし・てっぽう

③

ア・イ

! かい説

③

前半の場面では、りょうしが近くまで来ていることに気づいたおやぎつねが、こぎつねの命のきけんを感じ、「こーんあぶない。はやくにげなさい。」と大きなこえで呼び、こぎつねをにがしました。

後半の場面では、こぎつねが、思いがけないところでぶどうを見つけてたべているうちに、「まっておいで、おいしいものをとってきてあげる。」というおかあさんのこえを思いだし、「そこにぶどうがなっているわけ」がわかったのです。そして、自分のためにおかあさんが取ってくれたぶどうがそこで育て実をつけたのだと気づき、おかあさんにおれいを言ったのです。

おやぎつねがこぎつねのために取ったぶどうがどうなったのが、文章の中心となります。

29

物語

全体をつかむ
— あらすじ

練習

60・61ページ

① ツバメ・落ちて

② 例 ツバメが生きかえっ(て、だいぶ元気に
なっ)たこと。

③ イ

④ イ・ウ

! かい説

③

若い水兵さんは、ツバメに対して「大将」とよびかけています。ツバメは、水兵さんたちに世話をしてもらい、おねをはって、高らかに鳴くほど元気になり、その様子を見た水兵さんは「いよう、大将、元気だぞ。」と言ったのです。

④

文章の前半では、軍かんのかん板の上に落ちてきたツバメの命を水兵さんたちがすくったこと、後半では、水兵さんたちの世話で元気になったツバメが飛びたっていったことをおさえ、その流れにそってあらすじをまとめます。ツバメと水兵さんたちの交流の様子が文章の中心となっています。

30

物語

全体をつかむ
— あらすじ

練習

62・63ページ

① 例 大きな黒いかわの、ふくらんださいふ

② 例 いちばんおしまいのお客へくまそっくりのしんしゝ

③ くま・びっくり

④ 例 ねている顔はくまそっくりだったが、目ざめた顔を見て、松井さんは、くまに見えたのは目のまちがいだったと思った。

! かい説

③

③ — の前に、「しんしの顔が、まるで、くまそっくりに見えた」「びっくりした松井さんは」とあることから、松井さんはしんしの顔にびっくりして、ハンドルをきりそこないそうになったことをとらえます。

④

松井さんは、客席にわすれられていたさいふの中の「熊野熊吉」と書かれたためいしから、今夜のおしまいのお客のすがたをおもいだしました。()には、「熊野熊吉」という名前と、そのお客の様子とのおすびつきが分かる部分をまとめます。松井さんが見たお客の様子と、松井さんがおもったことが、「くま」「目のまちがい」という言葉を使って書いていけば正かいです。17

① しも・息をかけて・つめたそうな

② ウ

③ イ・ウ・ア

! かい説

① 文章の、寒い季節に特有の様子や、寒いときにする行動や、寒さを表す景色をえがいているところに注目しましょう。

② 寒くなってきたので、シロは南にいかねければならず、そのために清三は、シロをがけのはしまでつれていき、なげあげました。しかし、シロが、清三のあしもとにもどってきてしまったので、シロがもどってこないようにするために、清三はわあわあとさけびながら、ぼうきれをふりまわし、シロを追いはらおうとしたのです。

③ シロを南へいかせたいと考えている清三の行動に対して、シロがどうしているかを順にとらえて、あらすじをまとめましょう。

① 例 耳がよくなる ② イ

③ 例 つばみさんは、畑で二ひきのウサギがダイコンをぬいているのを見て、おすめがウサギだったことに気づいた。

④ 例 まほうのききめが、耳がよくなることだというところです。なぜなら、耳が長いウサギが作ったダイコンのまほうにぴったりだからです。

! かい説

③ 文章の最後で、つばみさんが、山の畑にいるウサギを見て、おすめの正体に気づいた部分の内ようをまとめます。

④ おすめが、まほうのダイコンのききめについて話していること、つばみさんがその話を聞いてなっとくしていること、山の畑でウサギがダイコンをぬいているのを見たつばみさんが、おすめの正体に気づいたことなど、この文章では、ふしぎなことが語られています。自分がおもしろいと感じた場面とその理由が書いていけば正かいです。

① ウ

② こんな国でありたい

③ ルール・こまる

④ 考え・自由・権利

! かい説

① のある文に、「〜とかだ」とあるので、前の文の例をあげていると分かります。例をあげて説明するのに合う言葉は、「たとえば」です。

② 第一段落に、「こんな国でありたい」という宣言が、その国の『憲法』ということになる」とあります。後の二つの段落に注目しましょう。「学校のクラス」の「ルール」を例にあげて、「国」の「憲法」について説明しています。

④ 筆者は、第一段落で憲法がどのようなものを説明し、第二・三段落で「学校のクラス」を例にあげてルールを守りたいせつさについてのべ、最後の段落で考えをまとめています。例と筆者の考えを分けて読み取りましょう。

①

(1) 電気をたくさん消費する

②

(2) 再開発や持ち主の都合

③

ア

④

地球かん境・私たちの暮らし

⑤

例 かん境を考りよした、長持ちする家をつくること。

! かい説

① ①・②の段落から読み取りましょう。

② 前の部分から、高度経済成長期に入ってから日本の「家が建っている期間」が「ずいぶん短くな」ったこと、その平均が「約二十四年」であったことがのべられています。

③ ①③の段落では、高度経済成長期の日本において、どのような家のつくられ方をしていたかという事実が説明されています。

④ ④・⑤の段落から読み取りましょう。

⑥ の段落で、筆者の考えがまとめられています。

文章の全体をつかむ

— 事実と考え

へ
おうよう

72・73 ページ

- ① 仕事 ② 勉強・知識や経験・心のケア
 ③ ア ④ やり続けて・こうけん
 ⑤ 例 おもしろいまん画をかいて、友達に読んでもらうこと。

! かい説

① 文章中にくり返し出てくるキーワードを見つけましょう。

② — のすぐ後に、「例えば」とあることに注目しましょう。具体的な例をあげて説明しています。

③ □の前の内ようが、後の内ようの理由になっているので、「だから」が合います。

④ 筆者は、最後の三つの段落で自分の考えをのべています。

⑤ 文章中にあるように、「『仕事』っぽいもの」でも、そうでなくてもかまいません。自分が今うちこんでいることや、しよう来取り組みたいことを書いていれば正かいです。

文章の全体をつかむ

— 要約する

へ
きほん

74・75 ページ

- ① ひらがな・カタカナ ※順不同
 ② ①部分 ②役所 ③日記 ④全体 ⑤和歌
 ③ (1)ウ (2)エ (3)イ ※(2)・(3)は順不同

! かい説

① ①の段落の最初の文に「ひらがなもカタカナも」とあります。「ひらがな」「カタカナ」は文章中でくり返し出てきます。

② ②④の段落では「カタカナ」について、⑤・⑥の段落では「ひらがな」について書かれています。それぞれのつくられ方と使われ方を読み取りましょう。

③ ②で読み取ったことをもとにして要約することができま。ひらがなとカタカナの同じ点は「九十九世紀ごろにできた」こと、「漢字」をもとにつくられたことです。ちがう点は、カタカナは「漢字の部分」をもとにつくられ、役所や男性の日記などで使われたのに対し、ひらがなは「漢字の全体」をもとにつくられ、和歌の世界で使われたことです。

37

説明文

文章の全体をつかむ
— 要約する

練習

76・77 ページ

① 発光生物の光の色

② 深いところ

③ イ

④ もっとも強い色・(もっとも) 効率がい

⑤ (1) 赤 (2) 白 (3) 青 (4) 緑 (5) 光

! かい説

① 第一段落で話題がしめされています。「発光生物」「光」

「色」という言葉は、文章中でくり返し出てきます。

② ③ 第五段落で「海の中の発光生物」が「青色」に光る理由、第七段落で「陸上の発光生物」が「緑色」に光る理由が書かれています。

⑤ 段落ごとの内ようをおさえましょう。第一段落で「発光生物の光の色」という話題をしめし、第二段落で「赤」、第三段落で「白」、第四・五段落で「青」、第六・七段落で「緑」に光る生物について説明しています。「海の中」「陸上」の色の理由については、第五段落に「光の性質」という表げんがあります。

38

説明文

文章の全体をつかむ
— 要約する

練習

78・79 ページ

① I

② チョウやミツバチ、ハナアブなど

③ 花粉・エサ

④ 例 タンポポの花のみつや花粉

⑤ ア

! かい説

① I の段落で、問いかけの形で話題をしめています。

③ の段落で、「つまり、タンポポはミツバチにエサを提供することで、結果として種子を実らせることができるというわけです。」とまとめています。

④ 前の部分に注目しましょう。「タンポポの花には、みつや花粉があります。そのみつや花粉は、こん虫たちにとって大切なエサになります。」とあります。

⑤ ②・③の段落で説明したことをもとに、④の段落で、タンポポとミツバチの関係が「取り引き」と言える理由をまとめています。この内ようを中心に要約したものを選びましょう。

①

(1) いつまでも今の状態を続けていくことができるという意味。

②

(2) 化石燃料・かく燃料

③

半永久的・（自然）かん境
 例 社会を「持続可能である」状態に変えていくには、再生可能エネルギーにたよっていくことが大切だ。

！
かい説

①

——の前後に注目して読み取りましょう。

②

第四段落に「こういった特ちょう」とあるので、その前の部分から読み取りましょう。

③

第三段落で、「では、わたしたちの社会を『持続可能である』状態に変えていくには、どうしたらよいのでしょうか？」と問いかけ、第四段落で「その一つの大きな選たくしが、再生可能エネルギーを使うということです。」と答え、最後の段落でまとめます。この内ようを、五十文字以内で要約しましょう。

①

四季それぞれの美しさ
 ② 季語
 自然との関わり合いで成り立っている

③

(1) 例 季節を味わう心

④

(2) 例 自然とともに生きていく一人ひとりの日々の暮らし

⑤

例 わたしは、春が好きです。好きなところは、きれいな花がたくさん咲くところです。

！
かい説

①

① ——の前から読み取りましょう。

②

□の前後に注目すると、俳句に「必ず使わなければならない」「季節をあらわす言葉」、つまり「季語」が入ると分かります。

④

最後の段落を中心に、「こうして」の指す内ようを読み取ってまとめましょう。

⑤

好きな季節と、その季節のどんなところが好きなのか、具体的に書いていけば正かいです。

41

ずい筆

言葉を味わう

へきほん

84・85 ページ

①

イ・ウ

②

大きな喜び

へ特別な喜びへ・感謝

③

イ

! かい説

②

「ぜひそうなってみる」の「そう」は、筆者の言うところの「欲ばりになること」を指しています。そして、その「欲ばり」の内ようは、前の部分でのべられている、ほかの人のために時間をつかい、そのことによって大きな喜びをもらい、感謝されるということです。そうなってみることを、筆者はすすめているのです。

③

筆者は最後のまとまりで、人間であることを味わいつくそうと言っています。それは、人間にしかできない「見も知らない人のためにも自分の時間をつかうことで、前のまとまりにあるように、「人と人」とが思いやりをもってはげましあい、支えあっている」ということなのです。

42

ずい筆

言葉を味わう

練習

86・87 ページ

①

お客(さん)・自室へ自分のベッドへ

②

ある昼下がりました。

③

動物

④

イ

! かい説

②

筆者が体験した、実さいに起こった出来事が書かれている部分をさがします。

③

「こういう経験」は、前の部分でのべられている、筆者とゾウとの間の出来事を指しています。それらをまとめると、どのような経験と言えるのかを考えます。

④

最後のまとまりで、筆者は「共有している時間のこさの中で、ある時ふっと、複雑な会話が成立するのである」とのべています。つまり、具体例をとおして、動物といっしょに親しく時間をすごしているうちに、こみいった会話がでることがあるということとをのべているのです。「必ず」会話ができれば理解できないのではアはまちがい、時間が長ければ理解できるわけではないのでウもまちがいです。

23

① 支え合う

② いたわり・他人の痛みを感じること・やさしさ

③ 友達・(ああ) 痛かった

④ イ

! かい説

② 前の部分の「」をつけてしめされている言葉を書きぬきます。「」をつけて答えていても正かいです。直後の「例えば」で始まる二文の内ように注目しましょう。

④ 最後の二つのまとまりに注目します。「この根つこの感情」とは、「いたわり」「他人の痛みを感じる」と「やさしさ」などの言葉で表される感情のことです。このような感情が自己の中にしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりの気持ちもわき出てくるのであり、そのような自己をつくっていけば、人類は仲よく暮らしていけると、筆者はうったえています。「本能ではない」「訓練をしてそれを身につけねばならない」とあるので、アはまちがい。「家族を中心とした社会にもどる」とは書いていないので、ウもまちがい。

! ずい筆の読み方

ずい筆を読むときには、筆者の体験・事例と感想・意見に注目しましょう。

例 88・89 ページ

【文章】司馬遼太郎『二十世紀に生きる君たちへ』

・筆者の体験・事例

…人という文字は、ななめの画がたがい支え合って構成されている。

…人間は、社会をつくって生きている。

・感想・意見

…社会をつくり助け合うことが、人間にとって大きな道徳になっている。

…助け合う気持ちや行動のものは、「いたわり」という感情である。

…私たちは訓練をして、「いたわり」の感情を身につけねばならない。

…それが根づけば、二十世紀は人類が仲よく暮らせる時代になる。

筆者が事例をふまえて、どんなことをのべているのかをしっかり読み分けよう。



44

詩

言葉を味わう

きほん

90・91ページ

① あつまれ

② ア

③ きびしさ

④ ウ

! かい説

② 西瓜すいかのまわりに家族をよんで、西瓜を食べるために
いよいよ真二つに切ろうとしています。――の「西
瓜だ」という強い言い切りの表げんから、二つに切っ
た西瓜の真まっ赤かにうれておいしそうな中身を思いう
かべて、はずんでいる気持ちが伝わってきます。

④ の部分では、冬に対して、「ぼくに来い、ぼく
に来い」とくり返しの表げんを使ってよびかけてい
ます。また、「ぼく」は冬の力になり、「ぼく」のえ
じきになる(Ⅱ「ぼく」が冬に打ち勝つ)と言ってい
ます。きびしい冬に負けることなく立ち向かってい
こうという、強く前向きな気持ちが感じられます。

45

短歌・俳句

言葉を味わう

きほん

92・93ページ

① イ

② あたたかさ

③ 春 ④ 冬 (2) ア (3) イ

! かい説

② 自分が寒いと感じていることを、相手も感じている
と会話でたしかめることは、ひとりぼっちではない
ということをつたかめることになります。作者は、
そんな安心感を、「あたたかさ」という言葉で表げ
んしているのです。

③ (1) ③は「春の海」とあるので、季節きせつは春です。④の
「大根だいこん」は冬の季語なので、季節は冬です。

(2) 「のたりのたり」からは、ゆったりとしていて、
のどかな様子が感じられます。

(3) 「大根で道を教えけり」の意味は、「ぬいたばかり
の大根で道を教えてくれた」とあります。大根を
しゅうかくしていた人が、その大根で行く先を指
して、道を教えてくれたということですね。

① コスモス・とうきび

② ア ③ 香へにおい・冬

④ ウ

! かい説

② さわやかな朝に、かすかな秋を発見したよろこびを感じた作者は、何かよいことが起こりそうな予感として、その期待感から、うれしい知らせをとどけてくれる「郵便」を連想したのだと考えられます。

③ 作者が生きていた時代は、子どもたちはふつう着物を着ていました。作者は、そのそでの中に入っているみかんのにおいをかいで、冬がやってくることを感じ取ったのです。

④ 作者からは、木を切っている人も、たおれる木のすがたも見えていませんが、こだまとなって聞こえてきた木をたおす音が大きかったために、大木がたおれたのだと分かったのです。どっしりとした力強さが感じられる俳句です。「夏山」とあるので、夏の季節をうたっています。

① 1・2・3 ② イ

③ がんばった・いやなへきたない・きたないへいやな

④ 農民へお百しゅう・決意

! かい説

② 【かんしゅう文】で、この詩の作者の宮沢賢治は、農業の仕事を始めることになり、「ぎちぎちと鳴るきかないてのひら」は「土にまみれたお百しゅうの手のひら」のことだと書かれています。

③ 【かんしゅう文】の「ここでの『ぎちぎちと鳴るきかないてのひら』とは」の後の部分に、――の表げんに対する筆者の考えがのべられています。

④ 詩の1～3行目には、春の光景がえがかれていて、4・5行目に、作者の思いがうたわれています。【かんしゅう文】の二文目に、「詩の最後の二行には、これから農民として暮らしていく決意がこめられています。」と書かれているので、この部分から作者の思いをとらえましょう。

① ほおじろ・高いけやきの木の上

② 喜び・ほおじろ

③ かわいらしく・かたつむり

④ 例 赤ちゃん・例 ぬいぐるみ

! かい説

① 【かんしゅう文】の一文目に注目します。二文目を読

むと、山にも春がおとずれ、そんな景色の中でさえずっているほおじろの様子が想像できます。ほおじろは、山にすむ、すずめにっている小鳥で、ほおが白く、おすが美しい声でさえずります。

② 【かんしゅう文】の最後の文で、筆者が、作者のどの

ような思いがどのように歌われているのかについて述べています。

④ 「ねこの子にかがれているやかたつむり」の俳句の

形を借りて、自由に俳句を作ります。俳句には、季節を表す言葉を入れて作るという決まりもありますが、今回は、形式が合っていれば正かいです。

① 例 群れをつくって泳ぎながら移動する

② イ ③ ウ ④ ア

! かい説

① —の前の段落に、「エサがたくさんある場所、……を求めて、群れをつくって泳ぎながら移動します」とあります。

② 最初の段落に、クロマグロが回遊する理由が書かれています。冬は寒いので、あたたかい場所を求めて移動することが分かります。

③ 「大洋」は「広い海」、「航海者」は「船で海をわた

ること」という意味です。スケールの大きな回遊を行うクロマグロを広い海をわたる「航海者」にたとえていることが分かります。

④ 〓の次の段落に、「黒潮は沖縄本島の近くで、太

平洋がわと日本海がわに分かれて北へむかう流れであるという説明があります。よって、沖縄から北へ向かう矢印のアが正かいです。

①

温室効果ガス・三十

②

ア

③

海そうや植物プランクトン・はい出量

! かい説

①

①——の前にある、「海は大気中の二酸化炭素を吸収」「人間の活動によって大気に放出された二酸化炭素のうち、約三十パーセントを吸収」「海が温室効果ガスである二酸化炭素を吸収」という部分から読み取りましょう。

②

②【図】は、「いそ焼け」（海そうなどの数が減少してしまふこと）の原いんを示したグラフです。これを見ると、主な原いんは「ウニの食害」「魚の食害」「海水温の上しよう」であることが分かります。つまり、「海水温の上しよう」によりウニや魚が活発になり、「食害」が起きていることが分かります。

③

③——の前の部分から、「海そうや植物プランクトン」の減少により、二酸化炭素を吸収できずにいること、二酸化炭素のはい出量が増加していることを読み取りましょう。

①

例し柱と同じ高さになったら、先たんの芽をつみ取る作業。

②

① エ

② ア

③

③ イ

④ ウ

④

ウ・イ

! かい説

①

①「てき心」は【資料】の「2. せん定・管理」から読み取ります。「し柱と同じ高さになったら、先たんの芽をつみ取る」とあります。

②

①は、ミニトマト作りのじゅんびをしているのでエ、②は「実をとる」とあるのでアが正かいです。

③

「材料」と「作り方」を見ると、③が「ミニトマト」、④が「塩・コショウ」であることが分かります。

④

【資料】では、ミニトマトの育て方の作業を、手順にそって図を用いながらしめています。【資料2】では、ミニトマトのチーズ焼きの作り方を、おいしく作るためのポイントと合わせてしめています。

① まちなか…案内・ゆう動サイン

商品…シャンプー・リンス、お酒のかん

② 年れい、性別、障がいの有無・製品やし設

③ ア ④ 利用・(みんなが)住みやすい・行動



かい説

① 【資料】の「まちなかのUD」と書かれている部分に

は「案内・ゆう動サイン」、「UDの商品」と書かれている部分には「シャンプー・リンス」「お酒のかん」が取り上げられています。

② 【文章】の「年れい、性別、障がい……デザインする」というUDの説明の部分から読み取りましょう。

③ 【資料】「UDの実せん」の「エスカレーター」には

「エスカレーターを歩くのは、きけんな行動」とあるので、「歩かないで利用する」とあるアが正しいです。

④ 【文章】にはUDの説明が、【資料】には具体例が書か

れているので、それらから読み取りましょう。

① おえなくなる

足あと・後ろに下がって・待ちぶせ

② ③ ④ 例こうげき・例見つからない

動物…例ラクダ 工夫…例さばくで食べ物

がないときも生きていけるように、えいようをしぼうにかえて、せ中のこぶにためておくという工夫。



かい説

① 次の段落に、「しつけをされていないりよう犬は、

……足あとがおえなくなるとりよう師さんのところへもどってきてしまう」とあります。

③ 【文章】で説明されているクマの工夫は、「おつてく

る敵をぎやくにこうげきすること」なので、アには「こうげき」が、イはその前の会話の内ようから、「周りのけしきにとけこんでいる」とあるので「見つかからない」などが入ります。にた表げんなら正しい。動物が生きていくために工夫していることを書きましょう。思いうかばなかったり、分からなかったりした場合は、本や図かんで調べてもよいです。

①

地形・樹木がしっかりと大地に根を張っていない

②

木の根・落ち葉・地中

③

①位、③位

④

あみ・けい

※順不同

⑤

【例】災害をふせいだり、かんきようを守ったりするために、森林の手入れを行うことが大切だと思った。

！
かい説

①

第二段落に、「樹木がしっかりと……が原いん」とあります。

②

前で、「木の根が張り、……ためておくことができる」と説明されています。

③

【文章】に、土砂くずれを「未然に防ぐ」、「たくわえた水の……河川に送り出」すがあるので、二〇一九年の①位と③位が当てはまります。

④

こうさんやりこさんの言っていることは、【文章】にも【資料】にもありません。

！
くらべて読むとき

文章や資料などをくらべるときは、同じところ・ちがうところに注目しましょう。

30

【例】110・111ページの【文章】と【資料】と【会話】

【文章】『本当はすごい森の話』

【資料】『林野庁「林業白書」』

【会話】あみ・こう・りこ・けいの会話

・同じところ…森林の働きについてのべている。

・ちがうところ

…【文章】は、災害や土、水との関係から森林の働きをのべている。

…【資料】は、一九八〇年と二〇一九年の、森林に期待する働きの①位から③位をあげている。

…【会話】は、【文章】と【資料】から読み取れることを話し合っている。

同じところとちがうところが分かると、【文章】と【資料】と【会話】のつながりに気づくことができるね！



55

物語

たしかめテスト①

112・113 ページ

① 妹へリエ・しかられ・ねこ・うろうろ

② イ ③ イ・エ

④ **例** おちこんでへうんざりして・元気をなくして・**例** 妹のためにがんばろうへねこをもらってくれる家を見つけよう

! かい説

② ねこをもらってくれる家が見つからず、とほうにくれ、これが妹のせいだというおもいもあったので、なげやりの気持ちになってしまっているのです。

③ リエは、ぜんそくがなおったら、だいすきなねこがかえるのではないかと考えているのです。

④ 「ぼく」は、夕方になってもねこをかかえてうろうろしなければならぬように、おちこんでいました。でも、自分の病気のせいでねこがかえないのだとおもい、なおったらねこをかいたいと願っていることが分かるリエの言葉を聞いて、リエのためにも、ねこをもらってくれる家を見つけようがんばる気持ちになっていることをとらえましょう。

56

説明文

たしかめテスト②

114・115 ページ

① (1) エコーロケーション (2) 反射・エサ

② メロン ③ ア ④ イ

! かい説

① — の前後では、イルカの「エコーロケーション」という能力について「クリックスを……などを知ることができる」「前方に……エサはいないかといったことをすばやく知ることができる」とあります。

② 図の「ア」が指している部分はイルカのおでこなので、「メロン」が当てはまります。

③ 「イ」の前ではイルカの耳の形について、後ではその耳が音の通り道になっていないことを説明しています。耳が音を聞く器官だという予想される事からは反対のことを説明しているので、「しかし」が当てはまります。

④ 第四段落でイルカの音の聞き方が説明されています。下アゴ↓骨・しぼう↓おくの部分↓中耳や内耳という音の伝わり方がとらえられます。

1

イ

2

例 体も心もらくになっていく。

3

自然・(自分の) ペース・たのしんで

4

例 図書館・例 静かなところで、自分の世界に集中できるから。

! かい説

2

【かんしよう文】の「そこで人々は、体も心もらくになっていきます」という文に着目します。「そこ」は、公園を指しています。

3

【かんしよう文】の三文目で、詩の～の表げんについて説明されています。「水」や「木木のこずえ」をたとえに用いて、公園での人々の様子を表しています。

4

詩の作者は、自分の座るところがどこでも公園になったらいいと考えています。あなたなら、どんな場所になるとよいと思うかを、自由に想像をふくらませて考えてみましょう。自分の考えをのべるときは、その理由もそえるようにすると、より伝わりやすくなります。

1

ウ

2

食べても安全な・おいしく食べることができる

3

ア× イ○ ウ○ エ×

4

①

! かい説

1

「過じよう除去」は、「食べものの皮やしん、骨などを取り除く時に出る」と説明されています。

2

【資料】の左下の部分で、それぞれの説明がされています。

3

アは【文章】【資料】ともに読み取れないので×です。イは【文章】の最後に「日本料理では……過じよう除去が少なくない」とあるので○です。ウは【資料】左上に「年間約600万トンの食品ロスが発生しています」とあるので○です。エは【資料】右下に「もし、食べきれなかった場合は、……工夫しましょう」とあるので×です。

4

【文章】を見ると、①の説明で、「期限切れや、……といった食品」とあり、これらは家庭では発生しない食品ロスと読み取ることができます。